

先進的な理系教育で知られる中高一貫校、県立青翔高校（御所市、藪田真孝校長）は、あらためて今年度、新しくSSH（スーパーサイエンスハイスクール）第3期研究指定を受けた。今期のテーマは「中高6年で拓（ひら）くサイエンスイノベーターへの道〜古都奈良からの挑戦」。このうち高1年・2年生は、「統合科学」と題した授業で、地元の御所市や地域企業と連携し、科学で未来を切り開くサイエンスイノベーターに必要な総合判断力とコミュニケーション能力を身につけていく。今年度3回目の10日は初めて外部講師を招き、御所市の三井秀樹・企画政策部長が、まちづくりや観光など御所市の未来をテーマに講演した。

青翔高校「統合科学」

地域連携

科学の目



授業で「これから御所は変わる」と、三井部長は語った。平成29年4月、奈良県、近鉄、JR西日本と4者で交わしたまちづくり協定から、駅前再開発が計画されている。歴史ある街並み、自然豊かな観光資源などについても語られた。

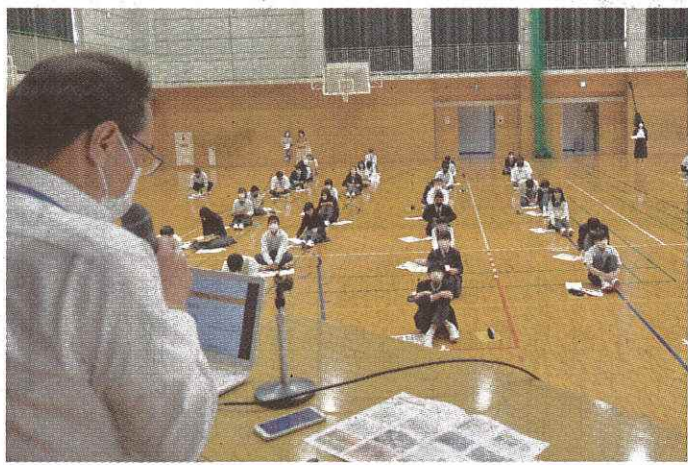
高校1年生76人がペンを走らせる。まちづくりや観光というテーマに、どう「サイエンス」を持ち込むのが、授業の課題だ。

統合科学は、地域の課題の解決方法を科学的視点から探る授業。データを基に、客観性や比較対象の因果関係を整理する。生徒は班に分かれ約半年、テーマを決めて研究を行い、研究成果を発表する。市は市民や行政の関係者向けの成果発表

まちづくりや観光

会も学校側に提案している。

三井部長の授業を受けた中島弘太郎さ



三井部長（手前左）の講演に聴き入る生徒
10日、青翔高校体育館

新たな視点で提案を

ん(16)は、「他セクターとの連携が行われるまちづくりに興味を持った」。吉田朝陽さん(15)は「御所に住み、通い、変わりない街並みだと思ったが、これからの変化に希望を持たた」。谷笑帆さん(15)は「知っていた以上の観光資源がある。活性化を考えたい」。吉井ほのかさん(15)は「御所のことを知ったつもりでいた。若い人が訪れるまちになる方法を考えたい」と、それぞれ意欲を見せた。

三井部長は「このまちに自分が暮らす気持ちになって、高校生目線で新しい提案をしてほしい」と話す。SSHを指導する山田隆文教諭は「探求的な学びにつながるヒントをもらったのでは」と手応えを語った。

＝つづく＝

奈良新聞では「青翔高校・統合科学 地域連携 科学の目」と題して地域連携を科学的に研究する「統合科学」の授業に注目していきます。記事は原則毎週月曜日掲載です。

記事の主眼は「生徒の思考の変化」。生徒が「行政や地域の企業という、普段直接触れることが少ないテーマをどう読み解き、理系思考で地域の課題とどう化学変化を起こしていくのかに注目します」。